

令和7年度第1回学校運営協議会議事録

さいたま市立三室小学校

- 1 日時・場所 [日時] 令和7年5月15日(木) 10:00～11:30
[場所] 3階 発見の森(高学年用図書室)

- 2 出席者
出席10名、欠席4名

3 次第

- (1) 学校長挨拶
- (2) 委嘱状・任命書の交付
- (3) 委員自己紹介
- (4) 会長・副会長選出
- (5) 学校運営協議会について
- (6) 三室小学校 学校運営に関する基本的な方針について
 - ・学校経営方針について
 - ・学校自己評価システムシートについて
 - ・三室小児童数及び教職員について
 - ・学校予算について
- (7) 熟議「子どもたちが『喜んで登校 満足して下校』できる学校づくりについて」
- (8) 三室小学校 いじめ防止基本方針について

4 議事概要

- (1) 会長・副会長選出について
互選により、会長に清水憲子氏、副会長に星野孝男氏が選出された。
- (2) 三室小学校 学校運営に関する基本的な方針について
校長より、学校教育目標、目指す学校像、目指す児童像、目指す教職員像等、事務職員より学校予算についての説明を行い、委員からは以下のとおり質問が上がった。

○説明にあった『レジリエンス』とはどういう力のことなのか。

→「しずんでも立ち直る力」と捉えている。集団の中で生活していると、意見の食い違いや折り合いがつかない場面も生じる。その時に、児童、保護者も含めて、うまくいかない経験を通してそれを乗り越えて前を向ける力を育てていきたい。

『失敗させない』のではなく、『失敗から学ぶ』ことも重要なことだという
ことを再度確認して、「子どもを主語にした教育活動」を行っていく。
○昨年度、教職員のやりがいに関する数値が高かったことについて、どのような
取組を行っているのか。

→面談の機械や日常のコミュニケーションの中から、教職員の「やりたいこと」と「やるべきこと」を明らかにし、バランスよく取り組めるようにすることを意識している。また、ストレスチェックにおいて、「上司のサポート」について肯定的な数値があがっていたが、学年主任をはじめとしたスタッフが、よくサポートをしているのも理由だと考える。

質疑応答の後、令和7年度の学校運営に関する基本的な方針について、委員の承認を得た。

(3) 熟議について

議題：子どもたちが『喜んで登校 満足して下校』できる学校づくりについて

目指す学校の姿として示している『喜んで登校(出勤) 満足して下校(退勤)』について、具体的にどのような状況を指すのか、そのために何が重要となるのかについて、ブレインストーミングを行った。

- ・集団での生活や活動の中で、人と人とのかかわり（先生と、友達と）がうまくいくことで、安心して学校に来られる。居場所があることの大切さ。
- ・学校行事や日々の学びに対するワクワク、ドキドキ感があれば、子どもたちは毎日喜んで登校できるのではないかな。
- ・帰宅後、「今日、学校どうだった」と聞くと、友達のこと、先生のこと、イベントのことを上げて「楽しかった」と答えが返ってくることが多い。体験的な活動や人とのコミュニケーションの中で満足感を得ているのではないかな。
- ・「満足して下校」という部分は子どもの様子からも感じる。一方で、朝の様子を見ていると「喜んで登校」はできていない子どもも多いと思う。その日の見通しがもてていないと、不安が先に来てしまう。例えば、図工の持ち物の連絡などでも、「この材料を使って楽しい活動ができる」ということを分かっているならば、それを楽しみに登校できる子もいると思う。若い先生方が多いという話だったが、そうした先生方もとても頑張っていると感じる。
- ・学びや行事、人とのかかわりを通して「満足して下校」という状態が繰り返されれば、それが「喜んで登校」につながるっていく。
- ・コミュニケーションの入り口として「あいさつ」が一つのきっかけになる。
- ・朝の登校で下を向いている子が見られる。あいさつが少ないことも気になる。

- ・コロナ禍においては「会話なく登校する」ことが求められていた。その延長線で、話をしない状態があいさつの少なさにつながっているのではないか。そうした背景も議論していく必要がある。
- ・防犯面でいえば、誰にでもあいさつをする必要があるのか。最低限、旗振りの方や防犯ボランティアにあいさつできるとよい。
- ・子どもたちは、校内では自分から進んで気持ちのよい挨拶ができています。登校時のあいさつについては、ただ「挨拶しなさい」というのではなく、背景もセットで考えていく必要がある。
- ・タブレットを、大人以上に子どもたちが使いこなしている。ただ、デジタルだけではなく、本に触れることなども大切だと考える。

上記意見をもとに、①学校、家庭、地域ともに、子どもたちへの積極的な声掛けを行い、「学びや学校での活動」に対する期待感を高める ②学校は、子どもたちが「明日も登校したい」と思えるような、子どもを主語にした教育活動を展開する ③地域、家庭は、体験的な活動がより充実するよう、積極的に学校の教育活動にかかわる（ボランティア、ゲストティーチャーなど） ④コミュニケーションのきっかけともなる「あいさつ」について、学校、家庭、地域とで ⑤学校は、タブレットをはじめとしたICTツールの活用法について研究を深め、効果的に用いることができるようにする ことを、今後の方向性として確認した。

第2回の学校運営協議会においては、実際に取り組んだ内容の検証を行うとともに、具体的な方策について熟議を行う。また、児童（運営委員会代表）も熟議に参加することで、子どもの視点も取り入れながら、『喜んで登校 満足して下校』できる学校について考えていくことができるようにする。

（3）事務連絡

- ・学校運営協議会の日程について
- ・令和7年度年間行事計画及び委員を招く予定の学校行事について
- ・提出物について
- ・授業参観について

5 総括

清水会長、星野副会長より、令和6年度の取組に関するあたたかい評価と、令和7年度の基本方針についての力強い後押しをいただいた。

- 6 次回開催予定〔日時〕令和7年10月23日（木）13：15～15：00
〔場所〕3階 高学年図書室（発見の森）